

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100459		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	那覇市寄宮一丁目9番5号		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町村受理日	令和6年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790100459-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和6年 3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 笑顔と元気をモットーにしています。 入居者に安心して生活していただけるように家庭的な環境、真心を込めて支援しています。 ご家族支援も大事に考え実践しています。 質の良いサービスの提供ができるように職員のスキルアップを行っています。 年間の季節ごとへの行事を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の優れている点は、個別ケアを重視した支援をしている。職員は日々の関わりの中で利用者の思いや希望の把握を心掛け、把握が困難な場合は利用者本位の視点での推察や家族から情報を収集し実践している。また月例ミーティングにおいて、ケアのあり方を見直し、より良い生活に向け取り組まれている。法人、事業所は研修の実施や資格取得に向けた支援など充実した体制があり、利用者への視点、個別ケアの大切さへと職員の意識向上に繋がっている。事業所の工夫している点は、管理者は地域の一員として、定期的に自治会長と電話や対面にて行事への協力意志を伝え交流の再開を進めている。今年度より地域の通り会清掃活動の参加や地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座で、地域の小学生向けに寸劇を行うなど啓発活動にも取り組まれている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、職員詰所、ホーム内に理念を掲示し、全職員が理解し、実践している。	開所当初より事業所独自の理念を玄関先など目に留まる場所へ掲示している。職員は毎月、定例ミーティングで日々のケアに反映できるように共有している。管理者はじめ職員は、利用者本位のケアの実践に向け、勉強会やケース会議などで個々の認知症の症状や特徴を理解し、「笑顔」に繋がる支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で交流の機会が減っていたが今年度は、地域自治会の清掃活動に参加できた。	利用者は施設周辺の散歩中、近隣の住民と挨拶するなど日常的な関りや実習生受け入れで、地域との繋がりを持っている。管理者は定期的に自治会長と電話や対面にて行事への協力意思を伝え交流の再開を進めている。今年度より地域の通り会清掃活動参加の再開や包括支援センター主催の認知症サポーター養成講座にて地域の小学生向けに寸劇を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響で地域自治会の行事が減ったが、今年度からは、運営推進会議は那覇市、知見者参加によってホームの取り組みや入居している認知症の人の理解や支援方法を報告、助言をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から2ヶ月に1回、運営推進会議の開催が再開、ホームの現状、支援内容、事故・ヒヤリハット、報告等は情報共有をできた。	運営推進会議は事業所にて2か月に1回開催している。欠席者へは文書郵送し、電話などで意見を聴取している。連続の転倒事故に対し、参加者から活発な意見や提案があり、事業所内で検討後、再発防止に至った事例もある。議事録ファイルは事業所出入口に設置し、随時、閲覧出来るようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やケアマネ、管理業務のなかでちやーがんじゅう課とのやり取りなどを行い、情報交換や市の担当者からのアドバイス等、交流を図っている。	主に運営推進会議の機会に、市職員や包括支援センター職員へ課題に対する助言を得、改善に向けて共に取り組んでいる。包括支援センター主催の認知症カフェや介護教室の開催を情報収集し、家族へ案内するなど協働関係の継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針に基づいて職員へ伝達、勉強会を行い理解してもらっている。定例会にて事例検討やアンケートを実施しひとり一人に合ったケアの見直しを行い、その内容を運営推進会議で報告している。	身体的拘束等の適正化のための指針、マニュアルを整備し、身体拘束をしないケアの実現に向けて定期的に研修を実施している。職員間で問題意識を共有していく為、事例を通しての話し合いや他事業所への相談なども積極的に行っている。身体的拘束等の適正化の対策を検討する委員会を定期的開催し、議事録にて職員へ周知徹底している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内や、法人の勉強会へ参加して学び、言葉の選び方、話しかけにも注意を払い職員間でも気をつけている。	高齢者虐待防止の指針の整備や研修を実施し、虐待の発生防止に取り組んでいる。日常で交わす会話の中での不適切ケアについて、職員へアンケートを実施し、ケアの内容や方法を分析し、必要な改善策を検討している。法人はストレスチェックを実施し、ストレス対策の研修開催や環境改善を通して、メンタルヘルス不調の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいないため支援を行ったことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程や重要事項説明書、個人情報保護に関する説明を書面・口頭にて十分に説明した上で契約・解除を行っている。家族からの問い合わせにも対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで頂いた要望・意見は日々の申し送りや、定例ミーティングにて職員へ報告、周知し共有している。	利用者から買い物の要望に対し、近隣のスーパーへ同行支援や家族へ嗜好品の持参を依頼など速やかに対応している。家族より入居前に通っていたデイケアへ利用希望に対し、再開の調整をした実例がある。職員は日々の利用者の様子を電子媒体を活用して家族へ報告し、意見や声が出しやすいよう努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例ミーティングや毎日の申し送り等においても職員の意見や要望を聞き、提案された事項は迅速に対応し、反映されるよう努めている。	管理者は、人事考課の面談以外にも定例ミーティングや日々の業務の中で職員の要望や意見を聞くように努めている。移乗支援において、職員の負担を考慮し、理学療法士による研修を実施し、負担軽減、業務の効率化を図っている。行事の企画においても職員からの提案を取り入れ実践している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、希望休、夜勤回数、曜日の設定など勤怠管理は配慮している。職員各々の能力を引き出せるよう行事や委員会活動を配置している。	事業所は健康診断や年1回のストレスチェック、希望休やリフレッシュ休暇の実施など心身の健康を保てるよう対応している。管理者は定期的面談以外にも話す機会を持ち、心身の負担軽減に努めている。法人には教育研修センターがあり、資格取得などスキルアップに向け支援している。ハラスメント防止の為、マニュアルの整備や周知の研修、相談窓口の工夫がある。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修(救急救命、認知症)や喀痰吸引、救急救命指導者、介護実務者研修等の資格取得研修へ派遣、ホーム内勉強会で伝達報告の機会を設け、自己研鑽を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護者研修や初任者研修の参加、他事業所との交流を通じてケアの質の向上、モチベーションアップを図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の実態調査において、本人、ご家族の要望や不安などを傾聴、信頼づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を確認、サービス内容や家族支援内容の説明を行い、家族との信頼関係づくりに努めている。 面会の際にも声掛けしコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を基にアセスメントを行い、ケアプラン作成時には本人、家族の要望を十分に把握し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で炊事や料理、洗濯物干し、たたみ等、各々に合った役割を設け、入居者様が無理することなく行えるよう手伝ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ホーム内での出来事をご家族様と情報共有している。 誕生日会、行事などに家族を交えた活動を通して、入居者様が孤立しないように配慮している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会、行き付けの美容室への外出同行等の体制づくりを行っているが、新型コロナウイルスの影響で自粛が続いている。	定期受診時に家族と外出し馴染みの場所や人との交流を図ったり、行き付けの美容室を利用している。週1回デイケアを再開利用し、地域や仲間との関係を継続している方もいる。数名は携帯電話を所持し、家族や知人といつでも連絡を取り合っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士互いに声掛けし、お手伝いをしてくれる入居者様もいる。食卓席の配置、余暇活動への参加声掛けを行い、入居者様が孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の相談できる機会づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からやりたいことなどを直接聞いている。 意向の確認が困難な場合でも言動や、行動から推察し家族からの情報を参考に本人に合った支援を行うよう努めている。	職員は日々の関わりの中で利用者の思いや希望を把握できるよう心掛け、ホワイトボードを活用し全体で情報共有している。手工芸など趣味が楽しめるよう、家族へ必要な材料の補充を依頼したり、買い物希望に対しては同行や代行支援を行っている。把握が困難な場合は利用者本位の視点で推察し、家族からの情報を収集し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談の実態調査において、本人の要望や不安などを傾聴、信頼づくりに努めている。、本人や家族から十分に話を聞き、入居前の事業所からの情報提供を依頼、把握してホームに入居しても極端な環境の変化が起こらないように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや日常の変化に気をつけている。申し送り以外に毎日、15時にミニミーティングを行い現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例ミーティングで入居者様の状況、状態を話し合い介護職員からの情報、本人、家族からの意向を反映した介護計画を作成している。	月例ミーティングで利用者のケース会議を実施し、より良い生活に向け、ケアのあり方を見直している。3~6か月毎または状態、意向に応じてモニタリングを行い、現状に即した介護計画の作成をしている。職員は介護計画書を理解し、思いを大切にされた個別ケアへの取り組みを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様各々の状態、様子等を個人記録へ記入して職員間で情報を共有、迅速に対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望、意見がある場合は迅速に検討、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用できていない状況ではあるが、要望に添えるようにしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様は法人内の「クリニック安里」の訪問診療により、適切な医療を受けている。また、病状によっては往診での対応も可能である。かかりつけ医を継続している入居者様へは受診の際、情報提供を行い、家族からは口頭で報告を受けている。	法人内のクリニック安里の訪問診療を使用し、病状に合わせた往診の対応も行っている。かかりつけの外部への受診は家族にて対応し、その後口頭での結果報告を受けることで共有を行っている。年に1回の健康診査は記録から確認ができた。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内にある「訪問看護ステーションかみはら」と24時間連携して入居者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の経過や情報提供、退院前のカンファレンス会議等へ参加して情報の共有を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針に基づき、入居前に説明し、入居中でも再確認を行っている。 家族、訪問診療、訪問看護、関係者、介護スタッフが連携をとり、今後も重度化や、終末期に向けた支援に取り組む。	重度化、終末期に関して、契約時と状態悪化時に説明を行っている。また、看取りに関する指針の整備もあり、昨年5月には看取りの対応を行い、訪問診療や訪問看護と協力しながら職員への声かけも含めてしっかりと対応することができた。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成、設置している。全職員はAED研修を受講、知識と技術の実践力を身につけている。介護職員1名がBLS(AED指導者)の資格を取得している。	緊急時のマニュアルが整備され、介護職員のAED指導者資格を持った職員によるAED研修の実施やその他の緊急時の勉強会を定例研修にて行っている。事故やヒヤリハットの記録も再発防止に向けて、職員へ周知徹底されている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の消防訓練、防災設備点検は行っているが、災害と水害を想定した訓練は行っていない。今後の課題。地域との協力体制は未だ確立されていないが、受け入れ態勢はとっている。	日中を想定した消防訓練が実施され、3月28日に夜間を想定した避難訓練が予定されている。実際に訓練を行った際、同施設内にあるデイサービスも一緒に行い混雑した状況が把握でき、次回への課題が明確になった。BCPは作成されているが、災害や水害を想定した訓練を今後の課題としている。感染症に関する委員会や指針の整備、研修の実施も行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉で抑制しないよう声掛けに注意している。また、声掛けが不適切な場合では、お互いに注意し合える間柄になるように努めている。排泄に関して職員間で言葉の工夫を行っている。	個人情報保護についての方針が入り口に掲示され、職員は入職時や毎月の定例研修時に言葉使用やプライバシーを尊重した対応の指導を受けている。日々のケアの中において、排泄時には扉を閉めて対応するやにおい等、気づいた時に職員同士で話し合うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、更衣の際には本人で選んでもらっている。散髪に関しては本人へ確認しヘアスタイルを決めてもらっている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの髭取り、野菜切り、食器洗い、テーブル拭きなど入居者の力量に合わせた役割を行っている。	3食職員が食事を調理し、材料のカットや簡単な材料の下処理、食器洗いなど利用者と一緒にできるように工夫声かけを行っている。利用者からのメニューの希望にそばが食べたいとあればメニューを変えて対応することもあり、利用者の気持ちを優先して提供している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表を使用して栄養バランスは整っている。チェック表を活用して食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、居室にて口腔ケアを行っている。 状態によっては訪問歯科を依頼している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人本位の排泄支援、排泄パターンを把握して声掛けトイレ案内、オムツ交換等の排泄支援を行っている。	排泄パターン表を参考に事前の排泄への声かけや誘導を行い自立支援を促している。入居初めはオムツを使用していたが、本人の希望や自立心を促すことでリハビリパンツや布パンツへの移行がスムーズに行えた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各々に応じた便秘予防(水分補給や運動、腹部マッサージ)に取り組んでいる。毎朝、乳製品、ヨーグルトを提供している。 ご家族からのヨーグルト・焼き芋等の差し入れをしてくれる方もいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は設定しているが、希望によっては回数、曜日の変更の対応もしている。担当職員が入居者のペースに合わせて脱衣、入浴、着衣、整容までの支援を行っている。冬には浴槽に浸かる方もいる。	週2回を基本とし、利用者の希望で回数を増やす方や曜日を変更する場合もある。同性介助を行う配慮をしており、入浴拒否の方には時間変更や職員を変えて声かけするなど対応を行っている。音楽を流しながら入浴をしてもらい、利用者の希望に沿った入浴支援を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休息してもらえるように居室内・外の環境や空調の調整等を行っている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護職員を中心に薬の管理は行っている。薬の注意事項や用法については説明書ファイルを作成し、いつでも確認できるように整理している。 薬の準備、服薬の際は職員2名で声出し確認を行い、服用直前には入居者様へ名前の確認も行っている。	服薬マニュアルに沿った支援が徹底され、薬の準備や服薬時の職員2名でのダブルチェック、服薬直前に利用者の名前確認を行い事故やヒヤリの状況を未然に防ぐことができている。服薬マニュアル、薬の情報についても職員が確認しやすいように定位置に保管されている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の趣味や好みを把握し、編み物やフラフープ、カラオケ、体操、塗り絵、タイプライターなど職員と一緒に楽しんでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出自粛が続く館内の池を見に行きながら散歩をしたりしている。自粛が続く中、野外での遠足等を職員・入居者様と企画し感染対策を徹底しながら配慮し、家族に了承を得て初詣を実施した。	近くの与儀公園へ散歩をしながら花見や初詣、近隣の散歩を行い、できる限りの外出支援を行っている。また、気分転換を図る目的で、日常的にベランダでの外気浴を行ったり、近隣のかねひでへの買い物支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様全員が家族管理。ホームではお小遣いを預かり金銭出納帳に記入、買い物支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の要望に応じてその都度対応している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫、安全に楽しんでくつろげるよう環境づくりの取り組んでいる。	共有空間には利用者が一緒にテレビを見たり団欒ができるようにテーブルと椅子が配置され、別のチャンネルが見たい時や雰囲気を変えたい利用者には、別スペースに別のテレビとソファが設けられている。音楽を流したり、照明にも注意しながら居心地の良い空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、ソファの配置に気をつけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に家族へ説明し、使用していた家財道具、小物などを持参してもらい写真や絵を飾りできるだけ自宅に近い環境づくりを心掛けている。私物は自由に持ち込みしてもらっている。	利用者が居心地良く過ごせるように入居前は本人の思い出の品や写真の持ち込みについて説明し、家具やカレンダーの配置など一緒に考えながら環境づくりができるように配慮している。居室扉には利用者が作成した紙のかわいらしいお花が飾られ、利用者が喜ぶ工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見て分かるよう掲示物(表示)にて場所を示している。		